

# A retrospective study of cancer-related stroke treated with mechanical thrombectomy

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石元, 玲央 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002934">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002934</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2619 号

A retrospective study of cancer-related stroke treated with mechanical thrombectomy

機械的血栓回収療法を行ったがん関連脳梗塞の後方視的研究

石元 玲央 (いしもと れお)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、がん診療に注力し血栓回収療法が常時施行可能ながん診療連携病院において、脳主幹動脈塞栓症に対して機械的血栓回収療法が施行された症例を対象とし、がん患者と非がん患者の 2 群に分け後方視的に比較検討することで、がん関連脳主幹動脈塞栓症の特徴と発症因子の検討を行った論文である。

機械的血栓回収療法を行った 72 例を研究対象とし、がん治療中の 23 例をがん患者群、49 例を非がん患者群の 2 群に分け、患者背景、一般的脳梗塞リスク因子に加えて、機械的血栓回収療法の手技、術後出血性合併症の有無、術後 90 日転機を比較している。統計学的検定の結果は、がん患者群で心房細動が有意に少なく (P value=0.005)、症候性脳出血が有意に多かった (P value =0.01) が、それ以外の項目では有意差は見られなかった。また、がん患者の静脈血栓塞栓症発症予測スコアである Khorana score を算出したところ、高リスクとされる Khorana score 3 点以上の症例は 23 例中 1 例のみであった。

以上の結果より本研究は、がん患者の脳主幹動脈塞栓症の発症リスクは、がん患者の静脈血栓症発症リスクとは異なること、および一般的な脳主幹動脈塞栓症のリスクとも異なること初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。